

## 日本画家(Japanese Painting)

### ■ 小沢英之 (Hideyuki Ozawa)

1961年愛知県瀬戸市に生まれる

愛知県立旭丘高校、武蔵野美術大学日本画学科にて日本画を学ぶ。20代は建築デザインや商業施設のコンサルティングに従事する。

30歳のとき他社の保証債務にて閉業に追い込まれ、ホームレス生活を3ヶ月経験し、その後すぐ大病を患い1年間の入院生活を過ごす。その頃の社会問題が「少子高齢化社会の是正」であり、入院中にさまざまな情報を整理し、企画立案を考える。32歳にて復活し、少子化問題に取り組む。33歳にて上京し、育児支援団体を企画し設立する。24時間、育児中の母親がほしい情報を自由に入手できるFAXサービスを開始し、のちにWEBに切り替えていく。その頃に多くの子どもを取り巻く問題や環境についての現状を知る。その後、厚生省環境育成課とも連携しながら支援事業を推進していく。この時点で子どもを持つ親からの相談や子どもたちからのダイレクトな相談などをメールや電話で開始する。のち2000年3月父・小沢幸二(日本画家・日展会友)の逝去に伴い、愛知県に帰省することによって、前述のNPO団体から離脱する。帰省した後、2000年5月より再び画業の道を歩みつつ、個人のスタンスで子どもたちの相談コミュニケーションは継続していく。在住地域内で子どもたちの環境問題の取り組みや子どもたちの育成に文化を通じてはげむ。2005年にチュニジア共和国との関わりができ、2年半で7回の渡航をし、約170日間の滞在をする。そこで子どもたちの姿に驚き、彼らから多くのことを学ぶ。現在、チュニジア共和国との文化交流に励みながら、現地小学校やハンディキャップスクールでのワークショップやセミナーなど日本の子どもたちにフィードバックできるプログラムづくりを推進する。

2000年 5月 第1回高遠の四季展「想」 日本画の部入選

6月 第4回現代墨画展「CATS」 入選

2001年 2月 個展・小沢英之日本画展2001開催 瀬戸市文化センター(以降、毎年開催)

2002年 8月 第3回フィレンツェ賞展「白韻」 入選

2003年 10月 第4回妙高四季彩芸術展「遠い日」 優秀賞受賞(日本画部主席受賞)

7月 ギャラリー寛 開廊記念第一回日本画展 出品(以後、毎年出品)

2004年 1月 ギャラリー寛 「第一回 上巳の節句展」出品(以後、毎年出品)

5月 第2回前田青邨記念日本画大賞展 入選

8月 個展・小沢英之日本画小品展「花鳥風月2004夏」 開催 瀬戸市文化センター

7月 瀬戸市瘤木町内地下歩道 壁画「花と少女」を手がける。

10月 第5回妙高四季彩芸術展「夏の訪れ」 奨励賞受賞

11月 第59回南日本美術展 「悠久の地に」 優秀賞受賞(日本画部主席)

12月 愛・地球博EXP02005パートナー事業「日本画で描く瀬戸百景 第一回五蘊会展」名古屋にて開催

2005年 2月 北アフリカ・チュニジア共和国ナブール市新庁舎竣工記念に「陶土の丘に」130号作品制作、献上。

2月 チュニジア共和国ナブール市新庁舎竣工記念作「陶土の丘に」発表展開催

5月 チュニジア訪問・チュニジア共和国へ取材旅行。

6月 愛知万博メモリアルイベント・瀬戸市ナブール市姉妹都市提携記念事業個展「チュニジアへの旅」日本画展開催

2006年 2月 個展「チュニジアへの旅Ⅱ」瀬戸市文化センター

3月 日本チュニジア国交樹立50周年記念ポスター原画をてがける。(チュニジア大使館より依頼)

4月 チュニジア訪問・チュニジア写生旅行を施行。

7月 日本チュニジア国交樹立50周年記念、個展開催(名古屋栄・ノリタケ画廊)

12月 チュニジア訪問・チュニジア共和国 サハラフェスティバルにて個展開催

アマール&小沢英之絵画展(日本にて/主催・駐日チュニジア共和国大使館・瀬戸市・ほか)

2007年 1月 チュニジア訪問・チュニジアにてナブール市・ナブールセンター、チュニス市ギャラリーカリガにて個展開催

2月 [Arts of TUNISE] City Club of TOKYOにて開催/主催・在日チュニジア共和国大使館、City Club of Tokyo

3月 チュニジア訪問・チュニジアにて日本画セミナーを開催。チュニジア映画「1930」by Fadhel Jaziriに関与し、アート

プロデューサーを務める。2008年カンヌ映画祭出品作品

ベン・アリ大統領夫人に作品「雑祭り」を献上。

7月 チュニジア訪問・チュニジアにてサマースクールに指導参加。

8月 [チュニジアと出会って...]個展開催／瀬戸市文化センター

9月 日本・チュニジア文化交流協会設立委員会を発足する。

11月 チュニジア訪問・Douzにて小学校でwork shop開催（サハラフェスティバル・イベント）。  
障害者スクールにてワークショップ開催。

12月 チュニジア訪問・40周年記念サハラ国際芸術祭にて再度招聘。個展開催。

2008年 1月 チュニジア・首都チュニスにて個展・セミナー開催。

ハンディキャップ・フェスティバルにチャリティ協力の個展開催。(by KIF KIF International)

チュニジア国営テレビにて特別番組「日本人から見たチュニジア、今の日本は？そして次代を担う子どもたちは？」に  
単独出演1時間番組。同局サテライト放送にて「日本人アーティストが思う次代を担う子どもたちへのメッセージ」に  
単独出演2時間番組。チュニジア版徹子の部屋+朝までテレビかと。

2月 チュニジアと日本の小学校のWEBによる互いの相手国の母国言語によるテレビコミュニケーションを関係各署に提案。  
実施に向け準備中。(当初、10小学校にて開始。2008年5月開始予定)

現在に至る。

2008年に日本の子ども(フリースクール通学児童)のチュニジアホームステイ・軽度身体障害者の交流プログラム・日本  
の子ども和太鼓とチュニジアの子ども太鼓のコラボレーションコンサートなど子どもたちの文化交流プログラムを計  
画し、そこでの子どもたちの変化を観察し、その後のプログラムをより効果的なものにしていく。

瀬戸市文化協会 副会長／ 瀬戸市日本画協会五蘊会 顧問／ 国立チュニス芸術大学 講師／ 名古屋市生涯学習センター講師  
財団法人瀬戸市文化振興財団 評議員／ 在日チュニジア共和国大使館高等研究員／ 日本・チュニジア文化交流協会 副会長／  
T A J (チュニジア) 理事／